

「ヒヤシンスを持ちかえる (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

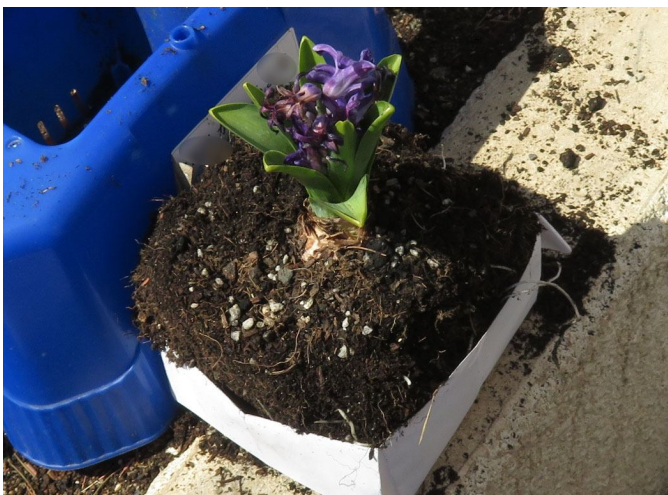
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

去年の秋に1年生の子どもたちが、一人ひとりの鉢に植えたヒヤシンス・・・1月2月は非常に寒く、雪も降ったが、すこやかに育った。ほとんどの子どもの鉢には、色とりどりのヒヤシンスが咲いて、1年生の花壇の前は、甘い匂いに包まれている。



終業式まで10日になり、家庭学習日や遠足、春分の日もあり、1年生が学校に来るのも5日しかない。そろそろヒヤシンスもち帰らなければいけない。



3組の音楽の先生が考えた方法が秀逸だった。まず、画用紙で即席の「紙鉢」をつくる。新聞の広告を折って、ごみ入れを作るのと同じ要領だ。担任が丁寧に教えれば、初めての1年生でも作ることができる。そこに土ごと「移植」して、そのままスーパーのレジ袋などに入れて持ち帰るのだ。



鉢は2年生でも使う予定だし、鉢ごともち帰るのは、1年生には少し厳しい。この方法なら土の量も減らせるし、家にある鉢やプランターに再移植できる。



ヒヤシンスの根は、鉢一杯にまん延している。できるだけ根を傷めないように、土ごと掘り出したいのだが、一人では難しく、友達と協力する姿も見られた。



この子どものように、球根・花・根と土が完全に分離してしまった子どももいた。しかし、ヒヤシンスは水栽培でも花を咲かせるほど丈夫な植物なので、この状態からもう一度土に植えれば、確実に生き延びる。特に土栽培の球根は、養分を温存しているので丈夫だ。